

2018
CSR
REPORT

最高の現場力



KONOIKE
KONOIKE CONSTRUCTION CO., LTD.

「最高の現場力」を発揮し、 社会の期待に応える

私たち鴻池組の仕事は、社会とのさまざまな接点を持っています。
多様なステークホルダーに対し、どのような責任を果たしていくべきなのか。
それを全役職員が明確に意識できるよう、鴻池組では
5つの「CSR活動方針」と年度ごとの「CSR目標」を定めています。
CSRを重んじ、あらゆる接点で「最高の現場力」をもって
社会の期待に応える。
その積み重ねにより、常に社会から必要とされ、社会に貢献できる企業に
なることを目指しています。

企業理念“KONOIKE SPIRIT”と CSR活動方針



CSR活動方針

- 1 コンプライアンスの徹底とガバナンスの強化
- 2 働きがいの向上
- 3 CR活動※によるお客様との共有価値の創造
- 4 地域社会との融和
- 5 環境負荷の低減と環境関連技術の練磨

※「CR活動」とは…
Customer Relations活動の略で、
お客様から寄せられる信頼の獲得と
その維持・発展のために行う活動のことです。

2017年度 CSR目標達成状況

2017年度のCSR目標達成状況は以下のとおりです。
【達成度】○：年度内達成、△：継続中、×：未達成

活動方針	取り組み事項	数値目標	達成状況	達成度
①コンプライアンスの徹底とガバナンスの強化	内部監査体制の定着	-	半期毎に内部監査実施	○
	代替拠点の機能強化	-	現況把握完了、強化は次年度実施	△
	「企業行動指針」の周知徹底	-	改正を決定、改正案作成中	△
	コンプライアンスeラーニングの実施	2回	2回実施	○
	情報セキュリティeラーニングの実施	4回	4回実施	○
	情報漏えい防止のための入口出口対策強化	ファイアウォール強化実施	2017年4月強化完了	○
	死亡・永久労働不能(障がい1~3級)災害の絶無	0件	1件	×
	目標度数率(休業4日以上労働災害)の達成	0.6以内	度数率0.59	○
②働きがいの向上	新卒採用者に占める女性割合増大	5%以上	9.4%見込み	○
	有給休暇取得率の向上	40%以上	40.1%	○
③CR活動によるお客様との共有価値の創造	お客様アンケート評価点数、工事成績評定の向上	前年度実績以上	アンケート：ほぼ全項目前年度プラス 成績評定：目標値達成15件	○
	CRに関するeラーニングの実施	2回	2回実施	○
④地域社会との融和	現場や会社施設見学会の参加者数増大	年間延べ3,500名	年間延べ6,569名	○
	地域ボランティア活動への参加件数増大	年間延べ250件	年間延べ822件	○
⑤環境負荷の低減と環境関連技術の練磨	施工段階におけるCO2排出量削減(原単位)	2013年度比26%削減(2030年度まで)	30.3t-CO2/億円(2013年度比 3.6%増)	△
	再生可能エネルギー案件への取り組み	3件	4件(土木2件、建築2件)	○
	建設副産物リサイクル率の向上	96%以上(2019年3月まで)	92.4%	△
	3R活動の積極的な実施	-	3R推進功労者等表彰3件受賞	○
	環境修復工事の積極的な実施	10件	13件	○

2018年度 CSR目標

2017年度の目標達成状況および社会からの要請等を踏まえ、
2018年度のCSR目標を以下のとおり定めました。

活動方針	取り組み事項	数値目標
①コンプライアンスの徹底とガバナンスの強化	重大なコンプライアンス違反の発生防止	発生0件
	安否確認システムへの登録率ならびにBCP訓練時の返信率100%	各100%
	コンプライアンス研修の実施(本支店単位)	1回(本支店ごと)
	コンプライアンスeラーニングの実施	2回
	情報セキュリティeラーニングの実施	4回
	死亡・永久労働不能(障がい1~3級)災害の絶無	0件
	目標度数率(休業4日以上労働災害)の達成	0.6以内
②働きがいの向上	新卒採用者に占める女性割合増大	10%以上
	男性育児休業取得率の向上	7%以上
	有給休暇取得率の向上	40%以上
③CR活動によるお客様との共有価値の創造	【民間工事】お客様アンケートにおける「事前期待に対する満足度」向上 【官庁工事】工事成績評定向上	【民間工事】「対事前期待」「担当者人物評価」とともにプラス 【官庁工事】設定目標値以上
	CRに関するeラーニングの実施	2回
	お客様の課題解決に貢献する技術の実用化(環境関連除く)	1件
④地域社会との融和	現場や会社施設見学会の積極的受け入れ	年間延べ4,000名
	地域ボランティア活動への積極的参加	年間延べ300件
⑤環境負荷の低減と環境関連技術の練磨	施工段階におけるCO2排出量削減(原単位)	26.9t-CO2/億円
	土木:再生可能エネルギー案件への取り組み	3件
	建築:設計施工案件で「ZEBもしくはCASBEEのAランク以上取得」	3件
	建設副産物リサイクル率の向上	96%以上(2019年3月まで)
	3R活動の積極的な実施	-
環境修復工事の積極的な実施	10件	

Contents

企業理念・CSR活動方針	02	チームKONOIKEとしての活動	10
CSR目標	03	地域社会とのつながり	12
社長メッセージ	04	低炭素社会の実現に向けて	13
CSR推進のための組織・活動	05	循環型社会の実現に向けて	14
お客様とのつながり	06	自然共生社会の実現に向けて	15
従業員とのつながり	08		

対象 ●組織 株式会社鴻池組単体
●期間 2017年度(2016年10月1日~2017年9月30日)

常に社会から 必要とされ、 社会に貢献できる企業へ



代表取締役社長 蔦田 守弘

早いもので社長就任以来10年の節目となる年度を迎えました。鴻池組がCSRを重視した経営を行っていくことを宣言したのが就任の1年前でしたので、私の社長としての歩みは常にCSRとともにありました。

「企業は社会の公器である」という先達の言葉は、インフラを支えるわれわれ建設業にとって、さらなる重みを持ちます。また、近年は災害廃棄物の中間処理業務などを通じ、社会との新たな接点も増えてきており、貢献の自負を持ちつつも、CSRのあるべき姿について思いを新たにしているところです。

●信頼を育み、常に社会から求められる企業へ

現在、鴻池組では「お客様との良好な関係を構築し、維持発展させる」ために行う活動を「CR活動※」と名づけ、全社を挙げてこれを推進しています。お客様からいただく評価をスコア化し、その上下に一喜一憂しているのみでは組織の力になっていきません。「お客様の前のご期待」をできるだけ精緻に把握し、それを実現できたのか、あるいは至らなかったのかを分析し、品質やサービスにフィードバックする体制を整備しました。未だ完成形と呼べるものではありませんが、「お客様満足」を可視化することで、CR活動を単なる「心がけ」から「具体的な取り組み」に一步進めることができたと思っています。

また、近年、内部監査部門を設置し、法務部門に弁護士資格を有する従業員を採用するなど、ガバナンスとコンプライアンスの強化にも努めています。お客様をはじめ、あらゆるステークホルダーとの信頼関係構築に向け、重要な取り組みだと考えています。

※「CR活動」は「Customer Relations 活動」の略です

●「働きがい」向上のために

2017年度より専門プロジェクトを立ち上げ、ダイバーシティ推進の取り組みを加速しています。多様な人財による多様な働き方を受

け入れることは、企業に多様なアイデアを生み出す土壌を作り出すことであり、ひいては活発で強靱な組織の構築につながると考えています。

また、鴻池組は、CSR活動方針のひとつに「働きがいの向上」を掲げていますが、これは当社の従業員のみを対象にしたものではありません。協力会社の作業員を含め、安全で快適な職場環境を提供することにより、チームKONOIKEの総力も向上していくものと思っています。

建設業においては、改正が予定されている労働基準法の残業上限規制に、深刻な人手不足を背景として5年の猶予期間が設けられました。しかし、それに甘んじることなく「働き方改革」を進めていかなければ、建設業は若者が選択する職業ではなくなります。「技能労働者の社会保険未加入問題」と併せ、建設業を魅力ある産業とするため、積極的に行動していくつもりです。

●技術開発の方向性

企業が事業として社会問題の解決に取り組むことにより、「社会的価値」と「経済的価値」を同時に創出することができるとする、CSV (Creating Shared Valueの略、日本語では「共有価値の創造」という考え方があります。これは、CSRの目的とされる「持続可能な社会の実現」、これをそのまま事業機会とする取り組みとも言えます。

鴻池組には、「持続可能な社会の実現」に貢献できる技術と実績が数多くあります。こうした技術を、それらを育んだ「鴻池組に連綿と息づく社会貢献への思い」とともに大切に育てていきたいと考えています。

2021年に鴻池組は創業150周年を迎えます。さらに次の150年に向け、当社に関わる全ての人々からの信頼を獲得し、常に社会から必要とされ、社会に貢献できる会社を築いていきたいと思っています。



CSR推進のための組織・活動

すべてのステークホルダーから信頼される企業を目指して、鴻池組は透明性の高い経営体制の構築に努めています。また、近年は法務部門の拡充を図り、コンプライアンス体制の強化を進めています。

コーポレート・ガバナンス

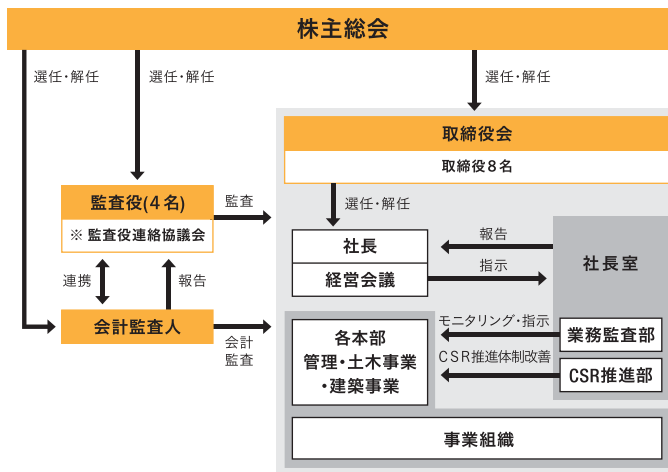
取締役会は8名で構成されており、機動的な人事を行うために任期を1年としています。同会では経営計画や重要な組織変更などについての意思決定を行っています。

経営会議は、会社経営に関する重要事項の審議を行うとともに、各本部長およびその他の業務執行責任者が会社の業務執行に関して意見を述べる場として定期的に行われています。こうした経営層の意思疎通を欠かさぬことで、バランスの取れた経営判断を行う体制としています。

業務監査部は業務運営の監査・モニタリングや改善指示などを、CSR推進部はCSR推進体制の改善を行っており、それぞれ社長室に属し、独立した組織となっています。

監査役は4名で、年4回および必要に応じ随時開催される監査役連絡協議会では、監査方針の決定、会計監査人からの報告聴取、必要に応じて取締役などからの報告聴取を行うとともに、監査結果などについて監査役相互に意見・情報交換を行っています。

▼コーポレート・ガバナンス体制図

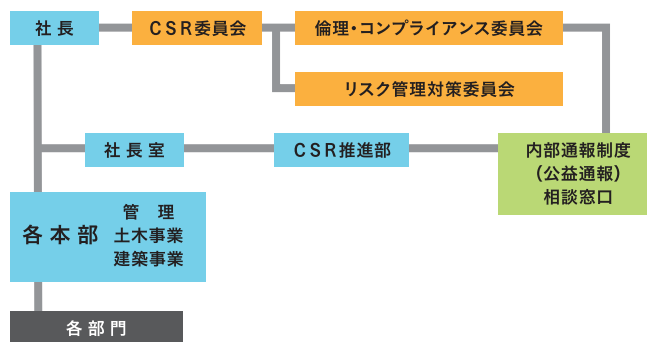


CSR推進体制

鴻池組のCSR推進体制は、社長を委員長とし、関連役員をメンバーとする「CSR委員会」を中心に構築しています。同委員会は、CSRの取り組みに関する施策などの意思決定機関として、CSR推進活動の定着と継続を図っています。さらに「CSR委員会」の下部組織として「倫理・コンプライアンス委員会」、「リスク管理対策委員会」を設置し、CSR推進活動を総合的に実践する体制を整えています。

また、CSR推進専任部署として本社社長室に「CSR推進部」を設置し、CSR推進計画の策定、CSR推進体制の継続的改善、CSRに関するモニタリング、CSR関連委員会の運営、CSRに関する社内啓発活動など、専属者による部門横断の取り組みを企画、実行しています。

▼CSR推進体制図



コンプライアンスへの取り組み

問題解決型コンプライアンス研修

社内研修において、実際の案件を素材にして、受講者とともに問題解決方法を検討するケーススタディを実施しています。問題解決を考えるに当たり、単に法令に適合しているだけでなく、企業としての社会的責任を果たしているかという観点からも議論を深めることを目指しています。



コンプライアンスeラーニング

日常的にコンプライアンスについて考える機会を提供するため、全役職員を対象としたコンプライアンスeラーニングを実施しています。2017年4月から6月にかけて実施した第1回のeラーニングでは、97%を超える高い受講率を記録しました。eラーニングの内容は、建設業法や独占禁止法など法令に関するものから、情報管理やハラスメントに関するものまで多岐に渡ります。今後も、役職員が職務を遂行する上で遭遇する可能性のある身近な問題を取り上げ、他人事ではなく自らの問題としてコンプライアンスを考える機会を提供していきます。



お客様とのつながり

お客様満足度向上のために鴻池組が近年注力している「CR活動」と、お客様の課題解決に貢献することを目的に開発を行っている技術についてご紹介します。

CR活動

※CRとはCustomer Relationsの省略形です

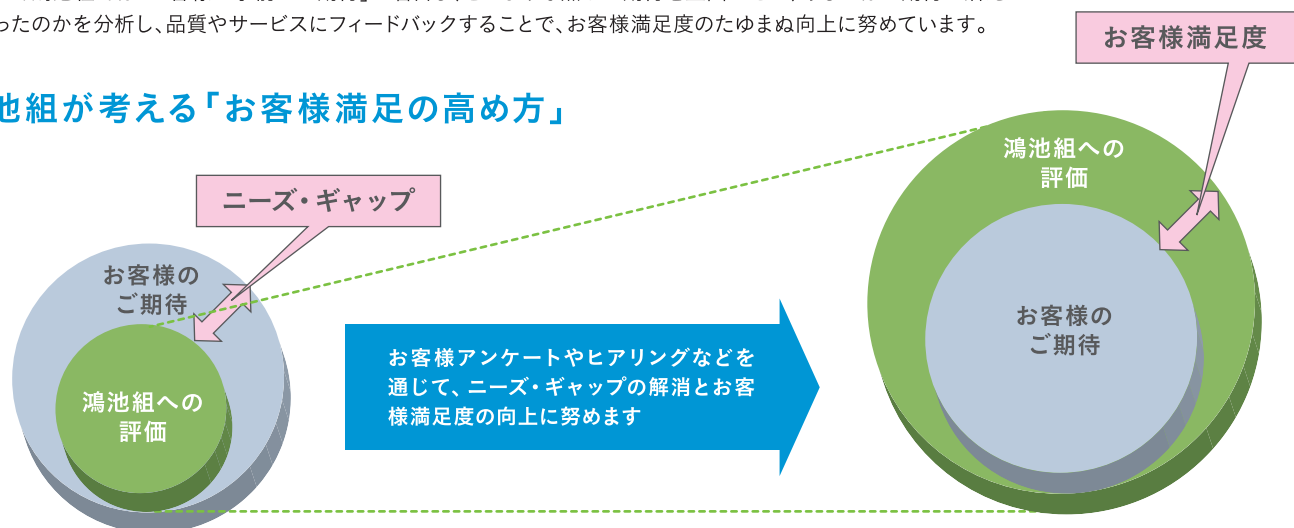
鴻池組では、「お客様との良好な信頼関係を構築し、維持発展させる」ために行う活動を「CR活動」と名づけ、全社を挙げて推進しています。

■ 鴻池組が考える「お客様満足度」とは

当社の提供するものに対して、お客様から「お褒めの言葉」や「アンケート、工事成績評価の高得点」をいただいたとしても、継続して安定的に提供できるものでなければ信頼には繋がりません。

そこで鴻池組では「お客様の事前のご期待」に着目し、どのような点がご期待を上回ったか、あるいはご期待に沿えなかったのかを分析し、品質やサービスにフィードバックすることで、お客様満足度のたゆまぬ向上に努めています。

鴻池組が考える「お客様満足の高め方」

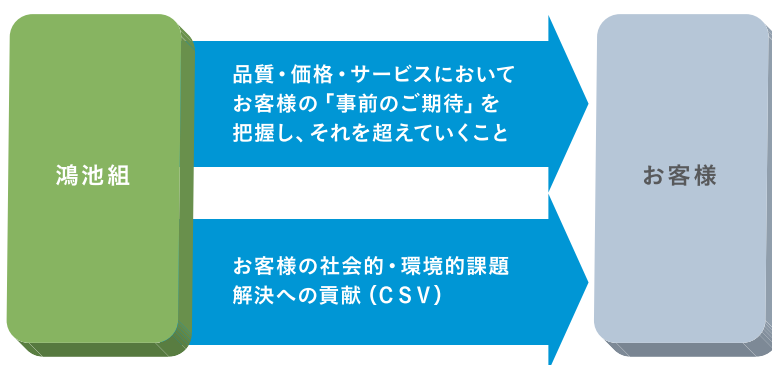


■ CSVの視点によるお客様の課題解決

企業が事業として社会問題の解決に取り組むことにより、「社会的価値」と「経済的価値」を同時に創出することができるとするCSV(Creating Shared Valueの略、日本語では「共有価値の創造」という考え方があります。

鴻池組では、CR活動にこの考え方を採り入れ、お客様を取り巻く社会的課題、あるいは環境的課題に対しベストな解決策をご提示できるよう、技術の研鑽とサービスの多様化に努めています。

鴻池組CR活動の2大テーマ

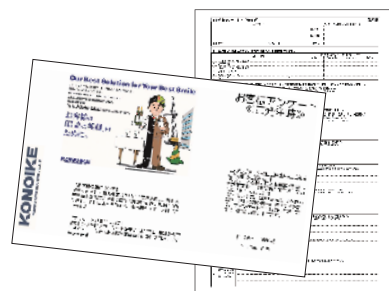


CR推進室 部長 西岡 紀一



お客様の「事前期待」、「実績評価」、「ニーズ・ギャップ」は、アンケートやヒアリングを通じて得ていますが、ご担当者様とその上司の方といったポジションによってご期待の内容が異なるケースがあり、お客様とのより密度の濃いコミュニケーションが求められます。

過去のアンケートからは、営業・工事・設計の各担当とも、「役に立つ情報の提供」の項目でお客様にご満足いただけていない傾向が伺えます。ニーズ・ギャップ解消が当面の課題であり、一方でビジネスチャンスでもあると、社内各部門に呼びかけています。



▲お客様アンケート

大地震による天井の落下を防ぎ、人や生産設備を守ります

天井落下防止工法「^{タイト}帯塗くん」

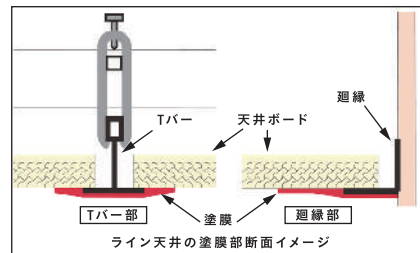
2011年3月に発生した東北地方太平洋沖地震では、多くの吊り天井が落下し、かつてない規模で人的・物的被害が発生しました。これを受け、建築基準法施行令などが改正・施行され、ホールや体育館など一定規模以上の「特定天井」については耐震化が義務付けられることとなりました。

また、鴻池組および関連子会社にも天井に関する多くの相談が寄せられました。既存天井の改修工事に対するお客様からの要望としては、「建物を使いながら短工期で」「騒音や粉塵を少なく」「ローコストで」などがありました。

これらに対応するため、鴻池組は、天井材メーカーなど異業種とのコラボレーションにより、「鴻池CSFP[※]工法(帯塗くん)」を開発しました。大きな特長は、天井面に繊維強化塗料を帯状に塗布することです。帯状の塗膜が隣り合う天井板や金物を連結させることで、地震時に天井が落下するのを防止します。また、従来工法とは異なり、天井内部に入らずに施工が可能などの特長の一つとなります。

これまでになくユニークなアイデアによって、お客様のご要望にお応えできたと思っています。

※CSFPとは、Ceiling Support system by Fiber reinforced coating Paintの省略形です



▲帯塗くんイメージ図



▲天井面の塗膜



▲帯塗くんの振動台実験

本社 技術研究所 主任研究員 高松 誠



今回の技術開発は、ニーズに応えられるシーズを発見したことから始まりました。タイルのはく落防止に関する研究業務を行う中で、繊維入り強化塗料の存在を知り、地震で被害が大きかった天井落下の防止に応用できないかと思いついたことが、開発へとつながりました。

研究の成果がお客様の満足に貢献できるように、今後取り組みでまいります。

あらゆる断面形状の大深度ケーソンへの対応を可能にした新型水中掘削機を開発 自動化オープンケーソン工法(SOCS)

自動化オープンケーソン工法(SOCS:Super Open Caisson System)は、1996年に建設省関東地方整備局(当時)の霞ヶ浦導水事業のシールド立坑工事に採用されて以来、施工の確実性、品質、安全性や省人化に対しお客様から高い評価を得て、深度50mクラスの立坑を中心に実績を積み重ねてきました。

そしてこのたび、100m超の大深度利用への対応、また、様々なニーズに応えるために、円形以外の断面への適用を可能にした新型水中掘削機を開発しました。

本工法は、オープンケーソンの施工においてケーソン刃先直下の地盤を水中掘削機で直接掘削・除去できることを最大の特長としており、水中掘削機は耐水圧1.2MPa(水中掘削深度120m)、適用最大壁厚3.5mの仕様となっています。加えて、施工ヤードの形状やケーソンの用途などの多様性に対応すべく、ケーソン平面形状は円形以外の小判形、楕円、矩形(最小半径2.8m)といった異形断面にも対応可能としました。また、遠隔操作用の掘削管理システムを3次元表示化し操作性を向上させるとともに、人間工学に基づいた運転席シートの採用により、オペレーターの負担軽減にも配慮しました。こうした多岐にわたる改良により、より安全に、より確実に大深度オープンケーソンの施工が可能となりました。

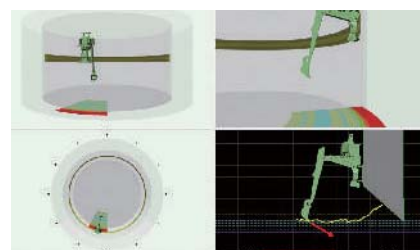
2017年5月31日～6月2日には、新型水中掘削機の公開実証試験を開催し、多くの方々に見学をしていただきました。



▲新型水中掘削機



▲公開実証試験の状況



▲掘削管理システムの画面表示例

大阪本店 機材センター 課長代理 西村 敦



人間が近づけない、見えない水中での掘削作業を機械に託すことは理にかなっていません。機械は正確に作業を進めることができますが、人間のように状況に応じた臨機応変の対応は不得手です。このため、開発では人間の知恵と機械の力との融合を図るべく、当社の施工ノウハウとメーカーやシステムエンジニアの専門技術とのマッチングに力を注ぎました。今後、ICTを活用した情報化施工の技術はますます必要不可欠になっていくものと考えます。



従業員とのつながり

鴻池組では、2017年度より専門プロジェクトを立ち上げ、ダイバーシティ推進に関する活動をさらに本格化させています。「多様な人財の創出と活躍」に向かう現況を、従業員の声を通じてご紹介します。

鴻池組のダイバーシティ

鴻池組では、中期経営計画(2017-2019)における基本方針として、3つの柱を掲げ、その一つを「多様な人財の創出と活躍」としています。

人は財であり、企業の力であるとの方針の下、国籍や性別、年齢、障がいにとらわれることなく、人財が思う存分、力を発揮する職場環境を整備することが会社の責務と考えています。そういった方針を推進していくため、2016年10月より、「ダイバーシティ推進体制構築プロジェクト」を立ち上げ、16名のメンバーで推進活動を行っています。

この活動の中で、①ダイバーシティ推進方針の確立、②女性活躍推進のための各種取り組みと目標の数値化、③子育て支援のための制度拡充と利用促進、④再雇用制度の改良、⑤障がい者雇用の促進について議論を行い、その実現に向けて従業員の意見を最大限反映するため、アンケートおよびヒアリングを実施しました。

多様な人財が活躍できるような職場環境の充実に向けて、今後も活動を続けていきます。

女性総合職採用実績と目標値

	2015年4月	2016年4月	2017年4月	2018年4月	2019年4月	2020年4月	2021年4月
女性総合職	3.5%	4.9%	6.7%	10%程度見込	目標10%以上	目標15%以上	目標20%以上

← 実績 → 目標値 →

【鴻池組のダイバーシティ推進方針】

鴻池組は、多様な人財を創出し、若くて強靱な組織構築を通じて、企業価値の向上を目指すために、ダイバーシティを推進していきます。

1 従業員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、安全で働きやすい環境を確保し、ゆとりと豊かさを実現します

2 ワークライフバランスの推進によって、従業員が能力を最大限発揮できる環境を整備し、将来にわたり持続可能な会社を目指します

3 女性管理職ならびに女性総合職比率の向上を実現し、女性活躍推進に積極的に取り組みます

育児休業取得者の声

管理本部 財務部 課員 いむた 藺牟田 健司



第一子(男の子)が誕生し、生後5ヶ月になる頃、育児休業を取得しました。休業を取る前は、私が帰宅する頃、息子は寝てしまっていることがほとんどで、寝顔を見ながら、起きない程度の小声で話しかけるくらいしかできませんでした。

休業期間中は、朝から息子と一緒に過ごすようになり、ミルクをあげたり、オムツを交換したり、一緒に遊んだり、お風呂に入れたり、たくさんコミュニケーションをとることができました。多くの時間を共有することで、息子との距離も縮まったように感じます。休業の始めの頃は、私1人で入浴させると泣いてしまい、妻に見守ってもらいながら入浴させていたのですが、お互いにだんだんと慣れてきたのか、泣くこともなくなり、お風呂で洗ってあげるとかわいい笑顔を見せてくれるようになりました。特にお湯につかるのが好きなので、手足をバシャバシャと動かし楽しそうにしています。最初は大変でしたが、お風呂の時間は私と息子のリラックスタイムとなりました。

1日中、息子と過ごすようになり、子育ての大変さを改めて感じました。また、いつも育児と家事をしている妻への感謝の気持ちでいっぱいになりました。

休業を取得し、家族との時間が増えたことで、以前にも増して家族を大事にしたいという気持ちが強くなりました。そして、家族の為にがんばろう、と仕事に対するモチベーションも上がりました。

今後も家族との時間を多く取れるように、メリハリをつけて仕事も育児もがんばります。

子どもの成長をリアルタイムで実感できる、そんなかけがえのない時間を過ごすことができ、嬉しく思います。



▲離乳食



▲絵本の読み聞かせ



▲入浴

育児時短制度利用者の声

東京本店 経理部 課員 杉山 彩



私には、1歳と6歳の2人の子供がいます。約1年間の育児休業を経て、2017年4月から復職し、育児休業制度時短勤務措置(育児時短制度)を利用しながら勤務しています。

育児時短制度は、1日の勤務時間を利用者の都合にあわせて2時間を限度に短縮できるという制度で、私の場合は始業を9時、終業を17時15分に設定し、合計45分の時間短縮をして勤務しています。

今年4月に次女が入園した保育園までは自宅から約30分かかりますが、朝と夕方の通勤時間に少しゆとりがあるため、気持ちにも余裕が持てとても助かっています。終業後は、保育園に次女を迎えに行き、また学童保育に通う長女と合流して、18時30分頃に3人で帰宅しています。

小さな子どもがいると、予定外のできごとが起きて、急なお休みや早退など、上司や同僚に助けをいただくことが今まで以上にたくさんあります。フォローして下さる方に感謝する気持ちを忘れず、仕事に臨みたいと思っています。そして5年後、10年後には仕事と子育てを両立したいと思っている後輩を支える側になりたいです。

結婚、出産を経て、生活スタイルも働き方も変わりましたが、仕事を楽しんでいるという気持ちは変わりません。2回目の復職ということもあり、自分の子育てだけでなく子どもを通じた人間関係の広がりや、社会との関わりにも目を向けることができるようになりました。

鴻池組の社員としてもまた、建設業という「もの創り」を通し社会とつながっていけることは自分自身を成長させてくれる力となり、働き続けられる環境に感謝しています。



▲次女を保育園へ



▲就業中



▲みんなで晩ごはん

外国人従業員の声

大阪本店 設備エンジニアリング部 課員 ダン・テ・カイ



私は2016年に入社した鴻池組国内における初めての外国人社員です。

現在は大阪本店設備エンジニアリング部に身を置きながら、担当現場の管理業務に従事しています。業務にあたっては、現場の設備工事と現場全体が円滑に進むように、現場および店内の方、協力会社、お客様、監督官庁の方に柔軟に対応する必要があります。そのため、コミュニケーションをとりながら、自主的に問題を発見し、解決できるまで追跡、フォローをするようにしています。

建設業の特徴的なこととして、協力会社の方と一体となって、品質管理、原価管理、工程管理を行うことがあげられます。それには、幅広い知識や経験が必要です。先輩たちに聞いたり、自分の1年目の時の失敗を思い出したりして、今の現場に活かし、失敗を繰り返さないように努力しています。日々の業務から学んだり、資格の勉強をしたりしていますが、日本語の壁を越えることも課題のひとつだと思っています。



▲協力会社担当者と打合せ



▲事務所での書類確認



▲現場での品質管理

一日の仕事の流れ

- 1 朝礼に参加し、協力会社に作業の注意事項を伝える。
- 2 現場で協力会社に作業の段取り、工事計画、施工方法を確認する。定例会、分科会があれば出席し、お客様と打合せをし、議事録を書く。
- 3 事務所でプロット図、施工図、納入仕様書、施工要領書、工程、見積書を確認する。お客様や協力会社とメールのやりとりをする。
- 4 現場を巡回し、品質管理業務を行う。不具合がある場合は、協力会社に是正を指示し、完了の確認をする。
- 5 本店に用件がある時は本店に戻り、業務をこなす。
- 6 帰宅し、資格の勉強などをして、就寝。



チームKONOIKEとしての活動

協力会社と鴻池組がともに連携して現場の生産性を高め、ひいては双方の収益向上を目指すための活動を拡充しています。そんな「チームKONOIKE」としての活動事例をご紹介します。

鴻池組東京本店 職長マスター協議会

鴻池組は、2010年度より優秀な職長に工事の計画段階から積極的に参画してもらうことで「生産性向上」を実現し、鴻池組と協力会社双方の収益向上を図ることを目的に「職長マスター認定制度」の運用を開始しました。

鴻池組東京本店では、職長の英知を集積し、個々の現場での生産性や安全衛生向上に関する活動を全ての現場に水平展開できるように、「職長マスター協議会」を組織しています。

職長マスター協議会（東京本店）の運営方針

1. 職長マスターの知恵の集約による生産性向上
2. 職長マスターの成長と現場への還元による収益の向上
3. 事故の無い現場と有事のネットワーク構築
4. 次世代職長マスターの育成



▲職長マスター協議会役員会

鴻池組担当者の声

東京本店 建築部 主任 前田 洋平

●チームKONOIKEとして

職長マスター協議会は東京本店が認定した職長マスターで組織され、協力会社の経営層による支援組織や当社の各部門と連携することで「チームKONOIKE」として一体となった活動を進めています。

●前年度の活動実績

各現場での職長会発足を手助けするために、他現場の良質な取り組みを容易に取り込める「職長会活動計画書」のフォーマットを作成しました。また、「職長マスターパトロール」を定期的に行い、様々な現場と意見交換することで、情報共有を促進しています。

●KISS(SNS)による情報のシェア

活動内容を共有、拡散するために、現場内および現場間における情報交換ツールである「KISS」※のさらなる有効活用を進めていく予定です。各現場や職長会から有益な情報がアップされ、共有されることで現場力が向上し、「チームKONOIKE」としての結束力もさらに強まっていくものと考えます。

※KISSとは…鴻友会(鴻池組の協力会社で構成される組織)・インフォメーション・シェアリング・システムの略称で、SNSの仕組みを利用した情報共有システムです。

●今後の展望

当初は限られた職種で組織されていましたが、様々な職種が加わったことで、さらに幅広い活動が期待できるようになりました。今後は生産性・収益性向上への取り組みに加え、CR活動、働き方改革、他組織(鴻友会青年部会など)との連携など、活動の幅を広げて行きたいと考えています。



▲KISS運用画面

職長マスターの声

職長マスター協議会 会長 奥原 光志朗(株都市建)



各現場には、工事を完成させるために色々な協力会社とその作業員が集まってきます。安全で円滑な作業を行うには、横のつながりが何より大切です。

自身の職長マスター協議会における経験値をチームKONOIKEの現場に還元すべく、私の配属現場であるオリジン電気地下部解体等撤去更地化工事では、あえて職長会活動の経験のない方に会長を務めていただき、私は会長と作業員が自然にコミュニケーションを取り合える環境づくりをサポートしました。春は現場に面する神田川沿いに桜が咲き誇りますので、お花見を楽しみにされている地域の方々へ日ごろの感謝を込めて、職長会で桜のライトアップを行いました。また、沿道の一斉清掃後に行うバーベキュー大会は、大変好評なため定番化しました。

こうした職長会の活性化が、職長マスター協議会の目指す「収益と生産性の向上」「事故の無い現場」「次世代職長マスターの育成」につながっていくものと思っています。



▲沿道清掃



▲バーベキュー大会(手前が奥原会長)

チームKONOIKE活性化委員会(土木部門)

人口減少、少子高齢化を背景に全産業の生産年齢人口が減少していくと予想される中、特に建設業においてはその傾向が著しく、「担い手の確保・育成」「生産性向上」が鴻池組を含めた業界全体の喫緊の課題となっています。このような中、業界全体では働き方改革やイノベーションなど様々な取り組みが行われていますが、協力会社に焦点を当てた当社土木部門の取り組みを紹介します。

2016年4月に鴻池組と協力会社のお互いの繁栄と強固な関係を構築することを目的に「チームKONOIKE活性化委員会」を発足させました。

第1弾として、土木事業本部長が各拠点に出向き、生産性向上や休日取得、社員教育などをテーマに協力会社の方々との意見交換会を行いました。2016年10月には意見交換会を踏まえたチームKONOIKEの活性化に関する実施計画を策定し、各本支店において「協力会社参画による着工前検討会の開催」「リクルート支援」「協力会社の技術者・技能労働者の教育支援」などの活動を行いました。2017年7月には各本支店の活動状況を取りまとめ、着工前の協力会社参画による施工検討会については、統一基準を設けて全国展開を図ることにしました。

着工前施工検討会では、工程や建設機械・労働者・資材の投入などに関して契約工種の施工計画を当事者が対等の立場で事前検討して、施工の効率化を図り、「施工計画」「生産性の向上」「工程短縮」「原価低減」「品質・安全確保」につなげていきます。



チームKONOIKE

活性化委員会の取り組み

定期意見交換

着工前施工検討会

リクルート支援

教育支援

お互いの成長・繁栄

現場生産性の向上

担い手の確保・育成(休日確保など)

土木工務管理本部 土木部 部長 牛嶋 浩一郎



現場職員は数年後には急速に若返る見込みであり、鴻池組土木部門を取り巻く環境が大きく変化していく中、協力会社の施工力を最大限に発揮し、当社の現場力を保持していくことが重要となります。

今後もチームKONOIKEの活性化に向けた取り組みを協力会社の意見・提言を反映しながら改善していくことで、協力会社との強固なパートナー関係を継続していきます。

スマートデバイスを用いた工事管理システム

「KOC^oチェック」の活用

熟練技術者の引退などによる現場管理技術者の慢性的な不足から、少人数で効率よく現場管理を行うことが求められています。

鴻池組では、現場での生産性向上と品質確保を目的に、ICT技術を活用したシステムの導入を推進しています。そのひとつとして、2013年にIT企業の(株)レゴリス様と共同開発した、スマートデバイス(iPad)による図面共有と検査機能を持つ「KOC^oチェック」(KONOIKE Construction Smart Check System)を全国の現場へ導入し、活用を進めています。

当システムには、表示した図面に検査情報や写真をメモとして保存できる「標準検査」と、オプションとしての「配筋検査」や「仕上げ検査」機能があり、今回、「杭施工記録」の機能を追加しました。各検査記録はクラウドサーバに登録され、事務所に戻ると自動編集された帳票が出力できるため、事務所でのデータ整理にかかる時間を削減することが可能です。また、現場での管理業務に必要な図面や参考資料をデバイスに事前登録することで、図面などを抱えて現場を動きまわることもなくなり、「作業能率の向上」と「ワークライフバランスの実現」に貢献しています。

建築工務管理本部 技術統括部 課長 波多野 純



現場の意見を取り入れながら徐々に改良を重ね、最近は現場職員から「すぐ使いやすくなった」、「手放せない」という嬉しい声が聞かれるようになりました。

今後は、AI、IoTなどの活用についても積極的に取り組み、現場職員の負担軽減と、より高品質なものづくりに貢献できるアプリケーションの開発を進めていきます。





地域社会とのつながり

さまざまな地域に出向いて生産活動を行う建設業は、地域社会とのコミュニケーションや発展への貢献に大きな責任を負っています。地域社会との融和を目指した各現場における活動事例をご紹介します。

現場見学会の開催

■ ティラワ肥料工場建設計画 【ミャンマー ティラワ地方】

ミャンマーの建設現場で、現場見学会と勉強会を開催しました。

主に基礎工事、鉄骨工事をテーマとした勉強会には、Myanmar Noble Collegeの学生25名が参加されました。

ミャンマーは雨季が長く、当日も降雨の中での開催となりましたが、学生の方々が非常に熱心に取り組まれる姿勢に、急成長を遂げるミャンマーのエネルギーを肌で感じるとともに、建設業の明るい未来をも予感させる体験となりました。

■ 牧整形外科病院新築工事 【大阪府大阪市】

病院の新築工事に先立ち、埋蔵文化財の発掘調査を行っている現場において、見学会を実施しました。公益財団法人大阪市博物館協会大阪文化財研究所のご協力のもと、大阪市立関目小学校の6年生57名にご参加いただきました。

普段あまり目にすることのない遺跡という歴史に触れることができ、有意義な会となりました。

■ 国道45号 宮古地区道路改良工事 【岩手県宮古市】

工事現場の近くにある宮古市立高浜小学校の児童42名の参加を得て、見学会を実施しました。

見学会では、ブルドーザーやバックホウといった重機への試乗体験や、低学年の子どもたちを対象とした、コンクリート構造物の床への寄せ書きなどを実施しました。

重機の迫力ある大きさや動きには、たくさんの歓声があがり、大盛況の見学会となりました。



▲ Myanmar Noble Collegeの皆さま



▲ 発掘調査場所の見学風景



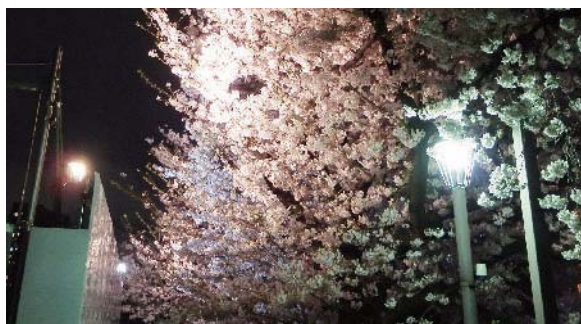
▲ 寄せ書きの様子

地域貢献活動

■ オリジン電気地下部解体等 撤去更地化工事 【東京都豊島区】

工事現場に隣接しており、多くの花見客で賑わう神田川面影橋の桜並木のライトアップを行いました。

夜桜がとても美しく、近くにお住まいの方々からもたくさんのお喜びの声をいただくことができました。



▲ 桜並木のライトアップ



低炭素社会の実現に向けて

低炭素社会の実現に向け、再生可能エネルギーの利用および省エネルギーに優れた建物を建設・改修する技術の開発を進めるとともに、工事に伴って排出されるCO₂の削減にも努めています。

HELLO ZEB スマートなエネルギー運用がはじまる つくば技術研究所ZEB[※]化工事

※ZEBとは、
Net Zero Energy Buildingの省略形です

当社技術研究所の本館ZEB化改修工事が2017年1月に竣工し、「ZEB」は計画から運用という新たなステージに移りました。

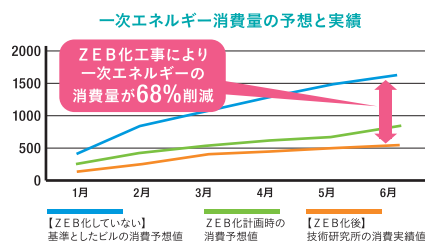
本館のZEB化は地球温暖化対策のひとつと位置づけています。改修は終わりではなく、この施設を利用した更なるエネルギー削減への挑戦の始まりです。

運用から半年が経過して

ZEBの運用を開始してから半年が経ち、採用したさまざまな要素技術の効果によって、エネルギーの消費量が減ってきました。

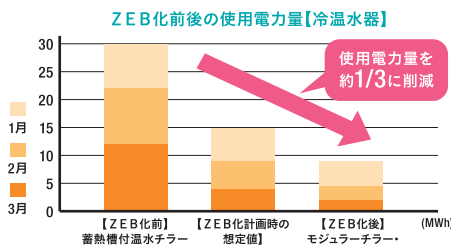
■ 一次エネルギーの消費量を68%削減

基準としたZEB化をしていないビルに対する一次エネルギー消費量の削減率は、計画値で51.7%と見込んでいましたが、6月までの実測値は68%となり、冬季のエネルギー削減率においては十分な結果を得ました。今後、夏季のデータを加え、年間を通じた検証を行います。



■ 使用電力量が1/3に

既存空調設備をモジュラーチラーに更新することで、使用電力量が半減すると予測していましたが、太陽熱温水の効果もあり、使用電力量は約3分の1になりました。



鴻池組ZEBのコンセプト▶▶▶

エネルギーを創る

- 太陽光発電
- 太陽熱の空調熱源利用
- クールトレンチ

エネルギーを減らす

- 後付けLow-Eガラス
- 後付け二重窓
- 日射追従ルーバー
- 太陽光自動追尾ブラインド
- 内張断熱
- 吹き抜けを利用した最適自然換気

エネルギーを上手に使う

- 高効率空調機器への更新
- タスク&アンビエント空調
- 輻射冷暖房
- CO₂連動全熱交換換気
- 大温度差変流量制御
- 空調変風量制御
- 自動調光型LED照明
+タスク&アンビエント照明
- 超高効率変圧器
- BEMSによる最適な統合制御と管理

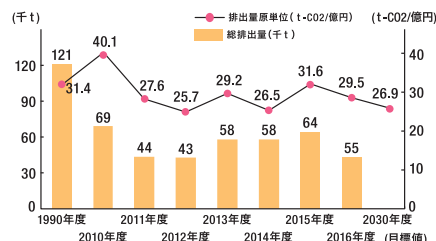
東京本店 設備エンジニアリング部 部長 花田 俊之



「ZEB」の本来の目的は、「Net Zero Energy Building」を創ることですが、エネルギー消費量を削っても使いづらい建物では意味がありません。技術研究所本館は日常の執務空間として毎日使用しており、体験型の研究施設ともいえます。単にエネルギー消費量の削減を目指すのではなく、使用者の意見を取り入れ、使用者への配慮も考えた快適な「Net Zero Energy Building」に発展させたいと考えています。

CO₂排出量の推移

2016年の施工段階におけるCO₂排出量原単位は、29.5t-CO₂/億円となり、前年比で2.1ポイント良化しました。工事量がほぼ横ばいなのに対し、排出量は前年より約9千t減少しています。これからも目標値である2030年のCO₂排出量原単位26.9t-CO₂/億円を目指して、資材搬入・運搬車両などのアイドリング・ストップ運動や建設重機関係の効率的な運用を計画し、CO₂排出量原単位の削減に努めていきます。





循環型社会の実現に向けて

循環型社会の実現に向け、建設廃棄物の発生抑制やリサイクル率向上に努めるとともに、地震などの災害によって発生した大量の廃棄物を処理する業務を通じて、被災地の早期復興へ貢献しています。

早期の復興を目指して

熊本地震に伴う被災家屋解体廃棄物等処理業務委託

平成28年熊本地震においては、最大震度7を二度にわたって記録し、熊本県を中心に多くの建物が倒壊するなどの甚大な被害が発生しました。熊本市内における被災した家屋などの解体廃棄物を含む災害廃棄物の総量は、2017年3月末時点の推計で約148万tにものぼるとされています。被災地の早期の復旧と復興のためには、こうした解体廃棄物を、適正かつ迅速に処理することが不可欠です。鴻池組では、再建の一助となるべく、震災によって生じた解体廃棄物の処理を2017年1月より行っています。

解体廃棄物は、鴻池組を幹事会社とする連合体と熊本市や他の受託者との間でとり決められたルールに従い、分別されます。木くずやコンクリートがらなどの品目ごとに分別された解体廃棄物は、熊本市内にある6ヶ所の仮置場へと運ばれます。鴻池組連合体はこの仮置場の管理と運営を行っています。仮置場へ搬入された解体廃棄物について、必要に応じて破碎や分別といった適切な中間処理を実施し、熊本県内をはじめとする全国のリサイクル施設や最終処分施設に搬出しています。また、木くずの破碎などの騒音や粉じんが発生する恐れのある作業は、各仮置場に設けた仮設テントの中で行うなど、周辺環境への配慮をしながら進めています。

土木技術本部 環境エンジニアリング部 課員 花木 陽人



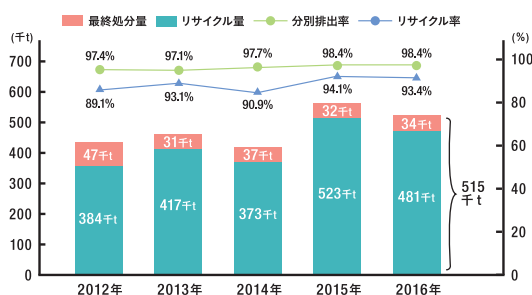
仮置場に搬入された解体廃棄物は、大型の破碎機や選別設備、そして最終的には人力によって適切に中間処理を行っています。このような適切な中間処理の結果、木くずはバイオマス燃料やボード材の原料などに、廃棄物混じり土砂はセメント原料などに、様々なものにリサイクルされています。環境負荷を抑えた解体廃棄物の処理を通して、熊本の復興に貢献できることを光栄に思います。

解体廃棄物の処理の流れ



建設廃棄物の排出状況

2016年の建設廃棄物の排出量は515千tとなり、前年比で40千t減少しました。分別排出率は前年と同じく98.4%、リサイクル率は前年から0.7ポイント減少して93.4%となり、最終処分量が増加しています。今後も3R活動や分別排出の徹底によってリサイクル率を向上させ、建設廃棄物の最終処分量の低減に努めていきます。



※3R活動…循環型社会実現のために大切なリデュース(廃棄物の発生抑制)、リユース(再使用)、リサイクル(再資源化)の3つの活動を指す言葉です。

マテリアルバランス

2016年の国内事業活動により発生した環境負荷や環境配慮について、電力や建設資材などの資源の消費をINPUT、完成工事高や環境保全を事業活動、建設副産物やCO2をOUTPUTに示し、マテリアルフローとして表しています。環境や社会に大きな影響を与える項目については継続的改善に努め、CO2の排出抑制による地球温暖化防止や建設副産物削減による循環型社会の実現に取り組んでいます。

期間:2016年1月1日~2016年12月31日

INPUT	事業活動	OUTPUT
■エネルギー 【電力】 オフィス 871千kwh 工事(グリーン電力含む) 15,996千kwh 【化石燃料】 軽油 16,610kl 灯油 67kl 11kl 重油 11kl 水 329kl ■主要建設資材 生コンクリート 162,544m ³ セメント 830,444t 鋼材 185,386t 鉄筋 45,358t ■グリーン調達 コピー用紙(オフィス) 15,343,249円 再生加硫アスファルト混合物 38,772t 高炉セメント 5,319t 生コンクリート(炭焼セメント) 97,663m ³ 再生材料を使用した型枠 53,09t 盛土材等 78,795m ³ 路盤材 49,587m ³	■土木工事・完成工事高 627億円 (会社事業年度:2015年10月1日~2016年9月30日) ■建築工事・完成工事高 1,202億円 (会社事業年度:2015年10月1日~2016年9月30日) ■環境保全 ・地球温暖化の防止 ・CO2の排出抑制 ・省エネルギー ・電力使用量の低減 ・循環型社会の構築 ・3R(リデュース・リユース・リサイクル) ・公害防止 ・生物多様性、大気汚染、資源の枯渇、土壌・水質汚染、騒音・振動など ■環境社会貢献 ■環境技術開発	■建設副産物 【建設発生土】 発生量 607,918m ³ 有効利用率 100% 【産業廃棄物】 発生量 514,958t 中間処理量 481,003t 最終処分量 33,956t 【再資源化・削減(リサイクル)率】 リサイクル率 93% 分別排出率 93% 分別排出率 98% 【うち特別管理】 産業廃棄物・最終処分量 1,996t ■CO2 排出量 54,732t-CO2 排出量原単位 30t-CO2/億円(施工高)

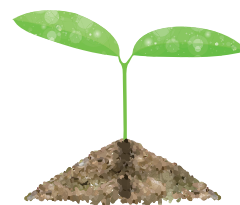


自然共生社会の実現に向けて

鴻池組では「生物多様性行動指針」を定め、自然環境に重大な影響を与えることのないように、計画段階から周辺生態系へ配慮しながら工事を進めています。

生物多様性行動指針

あらゆる生物は、誕生以来の様々な「つながり」により多様な「個性」を持つ(生物多様性)に至っていますが、近年、人の活動によって急速にこの「つながり」が途絶え始めています。鴻池組は、生物多様性行動指針を定め、生物多様性の保全と持続可能な利用を環境経営上の重要な課題と位置づけています。



行動指針

●設計・施工

- ・生物多様性の保全と持続可能な利用に配慮した設計、施工を行うよう努める。
- ・温暖化ガス排出抑止、建設廃棄物の発生抑制と最終処分量の削減、有害物質の取り扱いなど、生物多様性を脅かす環境負荷の低減には、さらに重点的に取り組む。

●調達

- ・グリーン調達方針に基づき、生物多様性に配慮した調達に努める。

●研究・技術開発

- ・生物多様性の保全と持続可能な利用ならびに環境負荷低減に寄与する工法の研究・技術開発に努める。

●コンプライアンス

- ・生物多様性に関する法令(生物多様性基本法)および環境法令を遵守する。

●コミュニケーション

- ・生物多様性の保全と持続可能な利用への取り組み内容などについて、ステークホルダーとのコミュニケーションに努める。

清流河川におけるアユ・ホタルの生息環境保全 静岡県下船原トンネル工事

本工事は自然豊かな伊豆半島の中央部に位置し、清流の船原川に面して道路トンネルの建設を行うものです。船原川やその本川である狩野川にはホタルやアユが数多く生息しており、流域では6月から7月にかけて各地でホタル祭りが開催されます。また、県内有数の鮎釣りの名所として知られています。

このため、工事中は特に船原川の環境を保全することに力を入れました。環境保全においては、「濁水」「粉塵」「光害」の3つの環境影響要因に着目し、さまざまなハード面の対策を行いました。

濁水対策

土砂流出防止柵の設置や計画的な仮水路の整備により工事用地内で発生する土砂を流出させない対策、高性能濁水処理設備の設置により発生した濁水や油を適正に処理し放流する対策、また、放流水の自主管理基準によるモニタリングを行うことで河川の汚染を予防しました

粉塵対策

ダンプトラックのタイヤ泥落としピットや防塵ネットの設置、法面の保護、ミスト噴霧、粉塵のモニタリングなどにより土埃の発生を抑制することで大気の汚染を予防しました

光害対策

遮光用万能版の設置や光害対策型照明の使用などにより夜間(一般的にトンネル掘削は昼夜施工)における照明などの河川への放射を防止しました

下船原トンネル工事事務所 所長 吉田 武久



今回のトンネル工事では本来の安全・品質の確保に加え、特にホタル・アユの生息環境の保全に力を入れました。ソフト面の対策としては、工事関係者に生物多様性への配慮の重要性を定期教育により認識してもらい、適切な設備などの使用や維持管理を行いました。
6月の夜に現場で観賞したホタルの幻想的な乱舞は非常に感動するもので、生物多様性を保全していく大切さを実感しました。



▲トンネル坑口付近全景



▲光無反射万能版・防塵ネット・土砂流出防止



▲遮光用万能版(トンネル坑口河川橋梁部)



鴻池組はFun to Shareに参加しています



【この報告書についてのお問合せ】

株式会社鴻池組
社長室 CSR推進部
TEL 06-6245-6516
<http://www.konoike.co.jp/csr/>